



■早池峰・岩手・秋田駒【花見湯山の旅】

- 山行日：7月9日(土)～15日(金)
- 参加者：L 佐々木 SL 垣内 大谷 村上

● 行動記録：

- (9日) 姫路駅 6:29 発－新花巻駅(13:42 着)14:00 発(レンタカー)－岳(15:20 着)
- (10日) 岳 5:30 発－小田越登山口(6:00 着)6:10 発～早池峰山頂(8:35 着)9:00 発～小田越登山口(10:50 着)－岳(12:05 着)12:20 発－いこいの村岩手(16:35 着)
- (11日) いこいの村岩手 6:40 発－焼走り登山口(6:50 着)7:05 発～第二噴出口跡(9:25 着)9:40 発～岩手山頂(14:10 着)14:15 発～八合目避難小屋(15:15 着)
- (12日) 八合目避難小屋 5:40 発－御苗代湖 7:40～犬倉分岐 10:30～網張温泉(11:50 着)－小岩井農場(12:30 着)15:40 発－赤渕駅(16:38 着)－国見温泉(17:00 着)
- (13日) 国見温泉登山口 6:10 発～男岳分岐 8:25～男岳(10:45 着)11:00 発～阿弥陀池(11:20 着)12:00 発～男女岳(12:15 着)～八合目避難小屋(14:00 着)
- (14日) 八合目避難小屋 8:50 発－アルパこまくさ(9:15 着)－孫六温泉(12:00 着)
- (15日) 乳頭温泉休暇村 10:00 発－田沢湖駅(10:45 着)13:11 発－姫路駅(20:42 着)

◆◆花見湯山の旅

佐々木

今回の山行は、半世紀昔に歩いた山を再び歩いてみようと思い計画をたてた。

“物見遊山”ならぬ“花見湯山”の旅のつもりであったが、実際は“重荷輸山”の旅となった。

1) 無謀と云うこと：山行二日前、荷が結構重いことに気が付きパッキングの途中で計ったら14kgを超えていた。パッキング完了後は、計ると背負うのがいやになるので計らず。それでも焼酎とつまみを詰め込んで、山に行くというのだから無謀である。

日帰装備の早池峰山は、岩手山への足慣らし。岩手山は、ボッカトレ。秋田駒は、勢いで。

何とかなるだろう。否、何とかせねば！！と、雨の上がった中、切火で送られ駅へと向かった。

2) 天候に助けられたこと：急登では、そよ風とうす曇りで暑くもなく、肝心な所では晴天と天候に恵まれ、13日夜からの土砂降りの雨も、(結果としてのバスでの下山も)、ガタの来た膝には恵みの雨となりました。岩手山は風、秋田駒は雨で、下山はエスケープルートを辿ることとなりましたが、重い荷でも歩けたスローペースの花と温泉巡りの山旅でした。

3) 記憶では：岩手山は這松が山肌にこびりついた荒涼とした山だったと思っていたが、意外と緑の多い山でした。測候所の建物は無くなり避難小屋が建ち、秋駒にムーミン谷が出現し・・・。

◆◆百名山憧れの早池峰山へ

垣内

リュックの周りには食料担当から預かった食材やガス、ロープ、シュリング、救急袋、寝袋、着替え、その他があり詰める工夫がいる。何回も詰めなおし最後に買ったばかりの一眼レフを入れるスペースを作り入れた。何しろ1週間の山旅は初めてである。アクシデントがない事を願うばかりである。

曇り空の新幹線西明石駅で4人が揃い新花巻駅を目指し出発した。新花巻駅を出てレンタカーを借り、岳集落にある宿(和泉坊)に向かう。途中リーダーお薦めのワイナリーにより試飲をしたが、運転をするリーダーは飲めないので宿用に1本調達し宿にむかった。

和泉坊は私達だけの宿泊で家庭的であった。前に見える大和坊は予約でいっぱい断られたとリーダーが言っていた。家のおばあちゃんが山でとってきた山菜やキノコなどたっぷりの食事を神棚のある部屋でいただいた。

10日は快晴である。5時30分発の1番のシャトルバスで小田越登山口に向かった。

河原坊からの登山道は、崩壊の為閉鎖されているので小田越登山口に集中し、たくさんの人であった。



サブザックでの登山で肩が軽く6時10分に登り始めた。早池峰山は携帯トイレが義務付けられているので使用ボックスも設置されていた。樹林帯を抜けると岩稜帯に入る。覚悟していた風もそんなにきつくなく進んでいくと、この山の女王ハヤチネウスユキソウが咲いている。

エーデルワイスとそっくりである。1800m付近には長くて急峻な鉄の梯子場がある。山頂はやや広く360度の眺めはガスの為見られなかったが、100名山踏破達成の人が仲間から祝福を受けていた。イワカガミ、ミヤマオダマキ、ヨツバシオガマなどたくさんの花に出会えた。上

り2時間20分下り1時間50分かかりました。予定より早かったため岳集落の早池峰山神社にお参りし、早池峰神楽の伝承館に立ち寄り6月の山開きの時の早池峰神楽をビデオで堪能しました。古い衣装などの展示もあり興味深く見せてもらいました。

その後、盛岡駅でレンタカーを返却し電車で好摩まで行き「いこいの村岩手」の迎えの車に乗せてもらい宿に着いた。岩手山が正面に見えるそうだが裾野が見えただけだった。夕食はこじやれた食事で美味しかった。明日のミーティングをして10畳と15畳の部屋で眠りにつきました。明日岩手山の先頭に行くように言われることもしらずに。

◆◆7/11~7/12 岩手山

大谷

前回東北山行の時に見た南部富士と呼ばれる岩手山に登れる事になった。

BSの「こころの旅」の放送で火野正平さんが自転車で通った焼走りから登り始める。今日は良いお天気で東北の空はとても青く澄んでいてきれいだ。

今回は、ザックがいままで一番重くて(14kg余り)歩けるか心配だった。

歩荷トレの要領でゆっくりとしたペースで歩くと良いと言われ、それを実行すると意外と歩けた。

ミズナラ、ブナ等の樹林の中を、さわやかに、気持ちよくゆるやかに登って行った。

第2噴出口跡に出ると眼下に、焼走り溶岩流が流れ出た所が、いまだに、広く焼け焦げたように黒くなっている。ツルハシノ分レに行くまでの所は、ずるずる滑る砂礫の斜面でコマクサの群落があり、燕岳で見たコマクサの1.5倍はあるような大ぶりの花がこれでもかと言うくらい、咲きほこっている。

屏風尾根の上部、平笠不動避難小屋までがきつい登りだった。一息ついてから、火山礫の急斜面を登ると、山頂外輪山に出てそこから最高点の岩手山頂薬師岳に着いた。外輪一周は止めて、今日泊る八合目避難小屋へ・・・。

あくる日は、5時40分に出発、風があるので、鬼ヶ城縦走コースはあきらめて、安全なお花畑コースに向かう事にした。岩のゴロゴロとした道を下って、森の中を歩いて行く。

お花畑からお釜湖と御苗代湖に寄って散策して、お花畑に戻り、大地獄谷沿いを歩いて、切り直しを通過して、黒倉山の迂回ルートを行き、姥倉山の分岐で、一休みしてから、犬倉山の巻道を通って、網張コースに下って、スキー場に2時間半、休み無しで急坂を下りて、足先が痛いのがガマンしながら必死で歩いた。網張ビジターセンターに着いたのがちょうど12時になっていた。

山の途中で予約していたタクシーで小岩井農場に行き、昼食にジンギスカンを食べて乾杯！！

2時間程、お昼寝タイム、のんびり散策の後、バス・電車を乗り継いで、赤湊駅から宿の車で国見温泉 秘湯の湯に。

ゆったりとした山旅も又、楽し！！



◆◆7/13～14 秋田駒ヶ岳

村上

晴天、エメラルドグリーンの名湯国見温泉から秋田駒ヶ岳へのスタートです。今日は、私が先頭です。尾根迄ただひたすらに登る事一時間、ブナ林の中小鳥の囀りが爽やかです。

ときどきLから「ゆっくり」と声がかかりましたが、後ろを振り向くと三人はそれぞれご自分のリズムで登っています。少ないメンバーなので一目で見えて安心です。横長根分岐に出て尾根を登ると最後に噴火(昭和45年)した女岳が望めます。緑の山々の中に見える黒い溶岩流が見渡せます。眼下には田沢湖を眺め、大焼砂とムーミン谷(馬場の小路)の分岐に到着です。

荷物をデポして大焼砂を散策、火山性の高山植物コマクサが可愛く咲いていました。分岐まで戻りムーミン谷に進むと、登山道の左右いっぱい可憐に咲き誇るコマクサの群落に出会い感激。谷に入り木道を進むと残雪の後にはチングルマも咲いています。小鳥の囀りを聞きながら両側お花の木道は本当に夢見心地です。男岳鞍部に上がる登りは急坂で、一歩一歩足元を見て緊張の時間でしたが鞍部の分岐に出ると一面にニッコウキスゲが咲き誇り、阿弥陀池が見渡せます。荷物をデポし身軽に岩場の登りを男岳(駒形神社)へ往復しました。阿弥陀池の木道を避難小屋に向けて淡々と歩き昼食。食後の散歩のように不規則



な階段が続く男女岳(1637m)に登る。他の登山者との会話は東北訛りが多く聞こえて心和む。同じように早池峰・岩手山・秋田駒ヶ岳コースの登山者が多いようだった。避難小屋に戻って、小屋の状態や天候の心配もありLが予定を変更八合目小屋(旧硫黄鉱山跡)までの下山を決定。見晴らしの良い緩やかな下りを約一時間ゆっくりと、下山しました。

バスの待合室2階が避難小屋です。小屋からは笹森山の登山道の斜面いっぱいニッコウキスゲの黄色い群落

が見えます。外は小雨模様、宿泊の準備をして最後のバスが出ると私達だけになりました。1階でお天気担当のOさんとLがラジオのボリュームを上げて天気図を描いています。皆で天気図を見て明日の予定を話し合いました。天候により乳頭山に向けて登るか、中止か・・・夕食は美味しく手巻き寿司を食べゆったりとコーヒータイムをしましたが、夜中暴風雨となり朝になっても大雨で山行中止が決定。雨の中、バスで乳頭温泉(孫六)に向け移動しました。最後の日はゆったりしましたが十分満足の楽しい山行でした。



■美ヶ原・霧ヶ峰(女性委員会) 高原を縦走、花と展望コースを歩く

- 山 行 日：7月22日(金)～24日(日)
- 参 加 者：L澤田 SL待場 阿江 有本 上川 坂田(敬) 島谷 砂川(美) 田中(美) 田中(由) 平石 藤原

● 行 動 記 録：

- (22日) 姫路駅 8:53 発一名古屋駅(10:33 着)12:01 発一松本駅(14:15 着)14:30 発一山本小屋(15:45 着)16:30 発～美ヶ原高原美術館 17:05～牛伏山 17:30～山本小屋(18:00 着)
- (23日) 山本小屋 4:20 発～美しの塔(5:00 着)5:10 発～塩クレ場(5:20 着)～王ヶ頭(6:15 着)6:30 発～烏帽子岩(6:55 着)～百曲がり園地(7:20 着)7:25 発～牧場入り口(7:55 着)～茶臼山(8:55 着)～扉峠(10:05 着)10:10 発～コロボックリヒュッテ(10:40 着)12:00 発～車山山頂(12:55 着)13:10 発～車山乗越(13:50 着)13:55 発～蝶蝶深山(14:15 着)14:25 発～車山乗越(14:40 着)14:45 発～コロボックルヒュッテ(15:00 着)
- (24日) 山本小屋 7:00 発～車山乗越(7:40 着)7:45 発～南の耳(8:45 着)8:55 発～北の耳(9:15 着)9:20 発～男女倉山(9:50 着)10:10 発～奥霧小屋 10:35 着～八島ビジターセンター(11:15 着)13:15 発一上諏訪駅(13:30 着)14:37 発一名古屋駅(17:01 着)17:11 発一姫路駅(18:42 着)

◆◆花の美ヶ原、霧ヶ峰を歩く

坂田

【7月23日】

昨日、新幹線から『ワイドビューしなの』に乗り換えて、美ヶ原『山本小屋』に着いた。

早朝3時起床、星空観察のはずが、3日に一度は発生する美ヶ原名物、霧のため断念。

4時半小雨のような霧の中、山本小屋を出発。広い歩道の両脇は、広大な牧場が続いているはずですが、牛の群れがぼんやり見える程度です。間もなく遭難防止の道標としてつくられた『美しの塔』に到着。塔をバックに記念写真を1枚。



少し上り坂になってきたと思うと、目の前に、突如、幻想的な電波塔が林立し、王ヶ頭ホテルが現れました。美ヶ原最高地点、2、034mの王ヶ頭です。その先は木曾御嶽山の方角を向いた石仏群がある王ヶ鼻です。2、000mの美ヶ原高原の先端で、その先は断崖絶壁、足下には松本市街、その先には北アルプスの山並みが楽しめるはずなのです。

この天候では眺望は望み薄なので、王ヶ頭はカットとなる。

足元のウスユキソウ、フウロ、ナデシコ、ワレモコウ等高山の花々は、きれいな色合いで優しい。塩くれ場付近から、牧場の中を、牛の糞を避けながら横切る。背中リュックが段々肩にくいこみ重く感じられる。茶臼山でしばし休憩して、扉峠までの長い下りでは足の踏ん張りが効きにくくなってきました。扉峠よりタクシーで、今夜の宿『コロボックルヒュッテ』に11時頃到着。童話の中にも出てきそうな、丘の上の小さな山小屋でした。なだらかな車山を眺めながら、テラスでボルシチとパンとコーヒーのおしゃれな昼食をいただきました。

ゆっくり休憩して車山、まるで古墳のような蝶々深山にのぼり、長い一日が終わりました。

霧に眺望を邪魔されはしましたが、幻想的な景色の中を歩き、雨には会わずいい山旅でした。

◆◆霧ヶ峰を満喫！

藤原

【7月24日】

3日目(最終日)6時出発予定であったが、朝食代わりのお弁当が7時にしか出来ないということで、1時間遅れの出発となった。朝から日が差し、皆の表情も明るく足取りも軽い。左手にスープ皿をひっくり返したような蝶々深山を見て、右手には車山を仰ぎながら木道を歩き車山乗越に到着。そこで朝食タイム、塩がきいたおむすびが爽やかな空気と共にとっても美味しかった。

今日は、殿城山をカットし、南の耳、北の耳、ゼブラ山のピークを経て八島ヶ原湿原へ下るルートに変更し(沢渡までの歩行1時間もカット)、私の好きなゆっくりリズム山行になった。

大きなホタルブクロ、群れて咲くウスユキソウ、濃いピンクのナデシコ、ハクサンフウロ、ヨツバヒヨドリ、



ピンクの小花をたくさんつけたイブキジャコウソウなどが最盛期だった。なだらかな草原状の山彦尾根を進み、それぞれのピークから遠望は無理であったが、周囲の景色が見渡せ、小鳥のさえずりを聞きながら静かな極上の山歩きだった。

その後八島ヶ原湿原に下ると、急に人が増え、小学生の団体や観光客などで大変賑わっていた。この湿原は標高1、650mで、約1万年の歳月を経て形成され、500種以上の植物が短期間に咲き乱れ、国の天然記念物になっているそうだ。広々とした神秘的な湿原の周囲は木道が整備され、両側にミズナラの木が生い茂り、たくさんの花々が咲き、中でも特に色鮮やかなピンクのシモツケソウが目を引いた。

3日間雨にもあわず、順調に最終目的地へ全員で到着出来、しあわせ～！色々と楽しい山行だった。皆で記念撮影の後、八島山荘で各々まったりランチタイムを過ごした。

リーダーさん、皆さん、ありがとうございました。



■花の百名山 白山(2702m)

- 山行日：7月26日(火・夜)～28日(木)
- 参加者：L上田 SL尾内 田羅間(易) 西川 西口 村上
- 行動記録：

(27日) 別当出合(9:05着)9:30発～中飯場(10:15着)10:25発～甚之助避難小屋(昼食・12:10着)12:50発～南竜道分岐(13:15着)13:20発～黒ボコ岩(14:30着)14:40発～室堂(15:05着)

(28日) 室堂3:50発～御前峰(4:35着)5:15発～千蛇ヶ池(6:00着)～室堂(6:55着)8:00発～黒ボコ岩(8:20着)～殿ヶ池避難小屋(9:10着)9:40発～別当出合分岐(10:40着)10:50発～別当出合(12:10着)

◆◆信仰と花の山 白山に登って

西川

白山はどのガイドブックを見ても信仰と花の山と紹介されている。富士山、立山と並び日本の三大霊山と言われ信仰の対象であり、その登山道は修行のために開かれたものである。もう一つは花の山として有名でハクサンフウロやハクサンシャクナゲなど固有の高山植物が多いと紹介されていて一度は登りたい山であったが、2702mの高度と夜行バス利用への不安もあった。

当日大阪発22時30分のJR高速バスで出発、バスは2階建て3列シートで私は狭い座席とその振動が気になりよく眠ることが出来ないまま翌朝5時40分ごろJR金沢駅に到着し、朝食もそこそこに別当出合行バスに乗り込んだ。ほぼ満席の客を乗せてバスは標高1260mの別当出合に9時頃到着。

ストレッチ後、砂防新道コースをスタート、最初の1時間は大量の汗をかき、きつかったが中飯場の休憩後は体も慣れたのか順調に登ることが出来、途中不動滝の雄姿を眺めたり、永平寺の若



い修行僧の団体と出会ったり信仰の山の雰囲気味わうことが出来た。その後12時10分甚之助避難小屋に到着。軽い昼食とコーヒーを飲み、一息ついたら小雨模様。

ザックカバーを装着し、スタート南竜道分岐を過ぎたころから高山植物の歓迎を受け、14時30分やっと黒ボコ岩に到着。ここからは風景が一変、眼前に弥陀ヶ原が広がりそこに2本の木道が室堂に向かって走り、その奥の台地に白山室堂小屋、更にその奥に白山最高峰標高2702mの御前峰が山頂に祠を頂き雄々しく聳えていた。

私は神々の住む領域に入り込んだ気がした。室堂までは木道と最後の坂道を一気に登りきり15時5分到着。出発から5時間45分の行程であった。

夕食後小屋の周りを全員で散歩し花を愛でたり記念写真を撮ったりしたが疲れたこともあり皆さん消灯の20時30分までには寝ていたと思う。

翌朝は3時過ぎに起床、まだ暗い中御前峰目指して出発。45分程で登頂。白山奥宮に参拝しご来光を待ったが、あいにくの曇り空で拝むこと叶わず、お池めぐりコースに出発する。荒涼とした剣ヶ峰、青い水をたえる翠ヶ池、ところどころに白い残雪、確かに神が住む世界である。そこを過ぎるとハクサンフウロをはじめニッコウキスゲ、シモツケソウ、チングルマ等のお花畑が目を楽しませてくれる。



【黒百合】

コースの終わるころには黒ユリが群生し

充実した時間を過ごすことが出来た。朝食後8時に室堂を後にし、黒ボコ岩まで戻り、そこから観光新道を下った。そこからは室堂のお花畑が色あせるほどの素晴らしい景色の連続。霧にかすむ幻想的な山肌に浮かぶ花々を眺めるとき、それだけで今回ここまで来た価値があると思うほどであった。この環境でしか生育できない貴重な花の数々、いつまでも保存したいものである。

観光新道とは名ばかりの荒れた急坂をやっとの思いで12時10分別当出合に全員無事到着することが出来た。

今回の山行で私が感じたことは不便な山の生活を体験したことで自分の生きる力が少し強くなったように思う。年に何回かはこのような環境に身を置きたいものだ。

最後になりましたが今回山行を計画遂行していただいた上田リーダー、尾内サブリーダー、ご同行の皆様、大変お世話になりました。有難うございました。



■立山テント泊 雷鳥沢キャンプ場で避暑と温泉三昧

- 山 行 日：7月28日(木・夜)～7月31日(日)
- 参 加 者：L 藤本 SL 田中(重) 田中(由) 山本(清)

● 行 動 記 録：

(28日) 大阪(夜行バス)22:00 発～富山駅(夏山バス・5:50 着)6:40 発～室堂バスターミナル(9:00 着)9:20 発～雷鳥沢キャンプ場(10:10 着)

(29日) 雷鳥沢キャンプ場 11:35 発～立山室堂山荘(12:30 着)12:35 発～浄土山手前(13:20 着)13:25 発～室堂平(14:20 着)14:30 発～雷鳥沢キャンプ場(15:40 着)

- (30日) 雷鳥沢キャンプ場 5:20 発～一ノ越(7:10 着)7:20 発～雄山(8:20 着)8:50 発～大汝山(9:15 着)9:17 発～大汝山休憩所(9:25 着)9:50 発～富士ノ折立(10:05 着)10:07 発～真砂岳(11:00 着)～別山(12:00 着)12:20 発～剣御前小屋(13:05 着)13:15 発～新室堂乗越(14:35 着)14:38 発～雷鳥沢キャンプ場(15:05 着)
- (31日) 雷鳥沢キャンプ場 6:25 発～室堂(7:30 着)8:00 発～立山駅(下山届・8:50 着)9:45 発～富山駅(11:40 着)

◆◆立山縦走テント泊

田中(重)

28日(木)阪急三番街バスターミナルを22時出発、夜行バスで富山へ向う。

29日(金)の朝、富山駅から夏山バスで室堂へ・・・。

さあ～いよいよ楽しみにしていた立山縦走の始まりだ。気になる天気も予報よりは好転して薄日が射している。室堂から雷鳥沢キャンプ場へ・・・。藤本Lを含めて4人のメンバーで、それぞれ約15～16kgのボッカで約1時間の石畳と石段の道のりだ。少ないメンバーなので複数の役割担当を背負っての山行となった。

キャンプ場到着後、幕営申請、テント設営、手際よく(伊吹山での教訓を活かし)藤本L指導で張り終え、そそくさと昼食をすませる。



今日はミクリガ池～浄土山～一ノ越～キャンプ場のコース。ストレッチを済ませ先程ボッカで歩いたミクリガ池まで戻りミドリガ池、立山室堂分岐を経て浄土山へと歩を進める。

途中、チングルマ・オヤマリンドウ・イワカガミ・キオン等の花々を愛でながら歩を進めていたら何と待望のライチョウ親子がお花畑を散歩、しかも幼鳥が七羽、見守る親鳥、微笑ましい親子の様子に思わずシャッターを切っていた。いつの間にか小雨が降りだし岩場、ガレ

場の歩きにくい急登を急ぎかけたが本降りになり浄土山登頂は断念し、キャンプ場へ引き返す事に・・・。残念な気持ちを切り替えて明日の立山三山縦走に備え体力温存する事になりました。雷鳥沢温泉で汗を流しスッキリ、夕食をすませ早めの就寝。

翌30日(土)朝食後ストレッチをして体を解し、天気を確認、先ず先ずの予報！・・・。

ガス(霧)の中、空を見上げ今日一日の天気を祈りながら一ノ越目指して出発。ミドリガ池を経て一ノ越までは石畳、石段の登山道が延々と続く。池塘(ガキの田)や多様な花々、雪渓を見ながら一ノ越山荘に着いた。一休み後、厳しい切り立った岩場の急登を一時間程かけて雄山へとひたすら登る。途中、岩の隙間のイワツメグサやイワギキョウに癒されながら標高を上げて行く。突然目の前が開け雄山神社の鳥居と山頂が眼前に飛び込んだ。

3003mの山頂、雄山神社峰本社で山行安全祈願のお祓いを受けた。雄山から大汝山にかけて、雲間から青空も見え富士ノ折立、真砂岳、別山、大日岳の峰々、眼下には地獄谷、雷鳥沢キャンプ場の大パノラマに感動でした。

「春を背負って」のロケ地、大汝山休憩所で「ぜんざい」を食べ息つく。

休憩所・主人の「ぜんざいパワーで、頑張ってください。」の言葉に励まされ富士ノ折立から別山へと向かった。別山からの劔岳を期待し昼食を取りながら暫く待つことにしたが

残念ながらお預け、それどころか雨が降り出したので急ぎ下山。劔御前小舎を経て新室堂乗越から雷鳥平にかけてチングルマの群生を脇目にキャンプ場へ……。温泉で汗を流してサッパリした頃には雨も上がりテント泊最後の和やかな夕食で盛り上がった。



31日(日) 爽やかに晴れあがった朝、浄土山、立山三山から別山に至る稜線が見渡せる中、バスターミナルに向かった。室堂から見える劔岳や大日岳に感動する一瞬でした。

今回の立山テント泊は富山から鉄旅のオマケ付きで思い出深い山行になりました。藤本L、お世話になりありがとうございました。

【参加者のひとこと】

- (田中由) 今回の立山テント泊はボッカトレのようでした。必要な荷物と不要な荷物の取捨選択、テント泊で立山の寒さと雨を経験できました。
- (山本清) 重い荷物を持って地獄のような坂道を歩いたり、9時間余り険しいアルプスの縦走路を歩き通せたことで少し自信がつけました。テントでキャンプの体験もよかったです。
- (藤 本) いい山行ができました。最後まで劔が見えなかったことだけが残念だ。



■「山の日」の取り組み

- イベント日：8月11日(木)
 - 集合時間：午前7時 集合場所：長尾新池駐車場
- スタッフ：赤木 上田 大谷 尾越 乙坂 貝塚(文) 垣内 澤田(律) 島谷 清水 荘所 須増 砂川(延) 瀧原 谷口 土井 舛賀 野村 藤本 藤原 待場 三木(悦) 村上 森本 山本(正一) 和田 渡邊(俊)
 - 協力者：高御位宮氏子代表 長谷川様

◆◆高御位山で冷たい飲み物を提供し、登山者と共に「山の日」を祝う 報告：上田

2014年「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」国民の祝日として「山の日」が制定され、今年8月11日最初の「山の日」を迎えました。

高御位山遊会ではホームグラウンドの高御位山山頂で、飲み物を提供し、登山者と共に「山の日」を祝うことを決めました。

7時にスタッフが集合、水や氷、飲み物など約100kgを分担して運び上げ、高御位神社の協力も得て、約200人の登山者に冷たい飲み物を提供し喜ばれました。その様子は神戸新聞でも掲載されました。

【活動】

- 1、飲み物、氷、水等で約100kgを分担して運び上げた。
- 2、高御位神社、長谷川様からテーブル、ポリタンク、水等を提供していただいた。
- 3、7時集合だったが早く来た人もあり順次登る。準備が早くでき8時前から飲み物の提供始める。
- 4、成井、長尾、鹿島神社、山頂などにポスターを掲示した。安全登山ハンドブックを渡す。
- 5、飲み物は150人を想定して準備。カップは200個用意し、これが無くなったので10時半頃終了した。
- 6、最後に「高御位賛歌」をスタッフ、居合わせた登山者と一緒に合唱して終わる。
- 7、用意した飲み物では、カルピスが早くになくなる、コーヒーは3本残る。水の希望あり。



■「初めての山歩き教室終了山行」白山三ノ峰

- 山行日：7月16日(土)～18日(月・祝)
- 参加者：砂川(延) 須増 西口 清水 教室生9名

● 行動記録：

(16日) 山電高砂駅北7:00発—JR加古川駅北(7:15着)7:17発—JR姫路駅南(7:38着)
7:41発—中国道福崎IC8:05—社IC(8:21着)8:30発—若狹美浜IC(10:19着)
10:40発—さかな街(10:55着)11:57発—敦賀IC12:05—北鱒江PA(12:45着)
12:52発—大野市内スーパー(13:30着)14:00発—鳩が湯温泉(14:45着)14:52発—
小池キャンプ場(15:09着)

(17日) 小池キャンプ場6:30発～6本桧(10:30着)～小池キャンプ場

(18日) ホテルフレアール8:30発—上小池キャンプ場入口(9:20着)9:35発～三ノ峰登山口
(9:55着)～刈込池(10:45着)11:02発～上小池キャンプ場入口(12:05着)12:15発～
鳩が湯温泉12:34—青豆とうふ(13:02着)13:20発—ふくそば(13:40着)—南条SA
(15:05着)—おさかな街(15:48着)16:20発—社SA(18:33着)—姫路駅南(19:20着)
—別所IC(19:32着)19:33発—JR加古川駅北(19:42着)

◆◆終了山行に参加して

清水

「初めての山歩き教室」最後の実技である『三ノ峰』！苦節8年やっと参加することができました。

食料調達の為、市内で買い物をし、最初の宿泊地のキャンプ場へ向かいました。

女性陣は夕食、男性陣は須増キャプテンの指導でテント設営をしました。さて、夕食時『焼鯖』が一匹足りません。どうしたものか??「たしかに、3匹買った。夕食の準備の時はあった。」皆さん、どこにあったと思いますか?“沢で泳いでいた??”正解は……!

テントで寝るのは初めて。暑くてなかなか眠れなくほとんど寝不足。次回は工夫する事にしました。出発の日、朝から土砂降りに近い雨。少し待ったが「行けるとこまで行こう」と言う判断で午前6時30分出発したが、なかなか降り止まず、『6本檜』到着が10時30分でした。「このままだと、下山がかなり遅くなると」言う判断で、三ノ峰をあきらめて下山しました。

本日の宿泊地へ向かい、風呂に入ってゆったりした気分になり、会社の事はすっかり忘れてしまった。夕食時には、半年ぶりの生ビールを6杯も飲み『世の中に、こんなおいしい飲み物があるのか』とつくづく思いました。(古代エジプト人はエライ!)

移動は、マイクロバスでしたが運転手の隣にアシスタントナビゲーター、兼添乗員がおりましてこれがまた、絶妙なタイミングで色々となし、『これって、隠れた才能ですよね!』『座布団、三枚あげます』

最初に高御位山に登った時、先輩から『ザックにウエイトを入れ、中所～北池まで1週間に1回縦走したらどこの山でもいける。歩荷と日々のトレーニングは大切だよ。身体はウソをつかないヨ!』と助言していただき、これを【座右の銘】にしています。

“会長及びスタッフの皆様ご苦労さまでした。教室の皆様、来年は再挑戦しましょう!!”



◆◆全てが初めての～終了山行

高島

<労山>という組織も知らない私が、たまたま新聞掲載の募集に気づき、その切り抜きを大切に行動開始したのが、この三ノ峰登山挑戦という流れになりました。私にとっては、思いがけない登山挑戦です。というのも、“六甲山縦走が完走できたら嬉しいな～”と思ってこの教室に参加させて頂いたからです。テント泊も初めてで、荷造りから大変で何を持って行こうか、出したり入れたりして、沢山の unnecessary 荷物を持って出発することとなりました。天気予報も一週間前から心配しておりました。しかし、雨でも六甲山ロックガーデンの雨経験があったので、“なんとかなるか”、と楽観するようになりました。

1日目の小池公園キャンプ場でのカレー作り、ごはんの炊飯、サラダ、焼きそば事件、全てにあたふたしていた私です。テント泊も沢のゴーゴーという流れの音で眠れず、時折動物の鳴き声がテントに近付いてきては離れて行き、怖くて怖くて、寝たのか、眠れなかったのか、早く朝が来てくれたらと思いました。

2日目は、出発する6時頃になって雨が強くなり、六本檜での折り返しが決められ、来年度のお楽しみとなりました。ぬかるみや水の流れる道を、始めは出来るだけ靴が濡れな

いように歩いていましたが、途中からそんな事も気にせず、ザブザブ歩き下ばかり見て歩いていたので、木の枝で3回も頭を打ちました。雲海の中を歩いている時は大雨でしたがそこを抜けると、まあ～綺麗～。山々の連なる雲海を見下ろし、思わず何枚もシャッターを押しました。それは一瞬の出来事でした。六甲山からの見晴らししか知らない私は、全く初めて見る景色でした。三ノ峰まで行くとどんな景色なんだろう？と来年度の楽しみが出来ました。

帰りのバスの中でSさんが「明日の予定を作ろう」と言われました。高御位山遊会でトレーニングしながら色々な勉強会に参加させて頂き、自分にとって未知の世界の扉を開き、明日の予定を作ろう～と前向きな生き方を目標にしようと思います。

会長さんはじめスタッフの方々に、こんなに素晴らしい体験をさせて頂けた事に感謝致します。本当にありがとうございました。また4ヶ月前には全く知らなかった教室生の方々とも助け合いながら、仲間になれたことを大変嬉しく思います。

今後とも皆様どうか宜しくお願い致します。

